

北日本新聞 8月11日 8面のイスラム国の記事を読んで

小杉南中学校一年 小島 隼介

今、日本は平和だ。しかし、日本以外の国には平和な国とそうでない国がある。他国と戦い、侵略し、殺し合う「戦争」。この言葉を聞くと僕は訓練させられた大人同士が戦う場面を頭の中にイメージする。しかし、実際はそうではなかった。今、シリアやイラクにまたがる地域を支配している過激派組織「イスラム国」は、子供たちを少年兵として前線戦闘や自爆攻撃に積極的に使い始めていたのである。

この記事を読んだとき、少年たちはどうして兵士になってしまったんだろうと思った。そしてさらに記事を読み進めていくと、驚くべき事実が分かった。

イスラム国は少年兵とする少年たちを、お菓子やおもちやなどで集められ、時には異教

徒の子どもたちを拉致し、イスラム教に改宗させているのだ。そうして集められた子供たちは軍事訓練所に連れて行かれ兵士として育てられているということが分った。

驚くべきことはこれだけではない。兵士たちは、少年たちに戦いの訓練だけでなく、宗教教育もしていたのだ。聖典コーランなどを暗唱させ、独自の教科書で少年たちに過激思想をたたき込んでいく。そして、戦闘服で集団礼拝を繰り返すうちに、彼らは洗脳され、少年兵として育てられていくようになるのだ。

僕と同じような年なのに……。生まれ育った場所によって生き方、そして考え方までもが変わってしまふことが、今実際に起こっている。そのような現状を知ったときは、ショックが大きかった。生きていくためには少年兵になるしかない。少年兵のしている行為は決して許されないことかもしれない。しかし、その背景を考えると、安易に少年兵を悪と決めつける訳にもいかないと思った。

こうした現状の原因は様々だが、一番の原因は「戦争」だろう。戦争をして何の得になるのだろうか。あつたとしても少年兵には全く関係がないだろう。大人の欲のための「戦争」が多くの子供たちを苦しませることになつてゐるのだ。

「戦争」とは一体何なのだろう。「戦争」とは、今世の中で一番平和が、遠いものだ。僕は思う。僕が、今この瞬間を普通に過ごしていることも、平和なことだと強く感じる。しかし、「戦争」をしている人たちにはそれが感じられないのだ。今も多くの国で争いが起き、イスラム国だけでなくたくさん少年兵が実際に存在する。争いをなくすのはとても難しい。でも、世界中の一人一人が身の回りの小さな争いをやめることは簡単なことではないだろうか。「争いは絶対にしない。」「自分の命を大事にする。そんな気持ちも大切に。」「少年兵たちにも生きてもらいたい」と強く願う。